

原子力規制委員会

平成30年度第3回行政事業レビューに係る

外部有識者会合

原子力規制庁

## 原子力規制委員会

### 平成30年度第3回行政事業レビューに係る外部有識者会合 議事録

#### 1. 日時

平成30年7月20日（金） 10:00～11:02

#### 2. 場所

原子力規制委員会 会議室B・C

#### 3. 出席者

飯島 大邦 中央大学経済学部教授

田淵 雪子 行政経営コンサルタント

西垣 芽衣 監査法人アヴァンティア パートナー

#### 事務局

原田 義久 原子力規制庁長官官房参事官（会計担当）

杉本 孝信 原子力規制庁長官官房総務課政策立案参事官

折橋 正敬 原子力規制庁長官官房会計部門経理調査官

#### 4. 配付資料

##### 議事次第

資料1 外部有識者点検対象事業に係る所見（案）について

資料2 今後の予定について

参考1-1 経済協力開発機構原子力機関拠出金の概要

参考1-2 経済協力開発機構原子力機関拠出金の概要（ロジックモデル）

参考1-3 平成30年度行政事業レビューシート（経済協力開発機構原子力機関拠出金）

参考2-1 原子力発電安全基盤調査拠出金の概要

参考2-2 原子力発電安全基盤調査拠出金の概要（ロジックモデル）

- 参考 2 - 3 平成 30 年度行政事業レビューシート（原子力発電安全基盤調査拠出金）
- 参考 3 - 1 原子力安全研修事業の概要
- 参考 3 - 2 - 1 原子力安全研修事業の概要（ロジックモデル）
- 参考 3 - 2 - 2 事業の統廃合の流れ（原子力安全研修事業関係）
- 参考 3 - 2 - 3 原子力規制委員会平成 29 年度行政事業レビュー公開プロセスにおける指摘事項及び今後の対応方針について（原子力保安検査官等訓練設備整備事業委託費）
- 参考 3 - 3 平成 30 年度行政事業レビューシート（原子力安全研修事業）
- 参考 4 - 1 高経年化技術評価高度化事業の概要
- 参考 4 - 2 - 1 高経年化技術評価高度化事業の概要（ロジックモデル）
- 参考 4 - 2 - 2 高経年化技術評価高度化事業の進め方と成果の活用
- 参考 4 - 3 平成 30 年度行政事業レビューシート（高経年化技術評価高度化事業）
- 参考 4 - 4 高経年化技術評価高度化事業に係る安全研究の方針及び評価の流れ
- 参考 4 - 5 高経年化技術評価高度化事業に係る事業計画及び活動進捗度
- 参考 5 - 1 - 1 人的組織的要因の体系的考慮に係る規制研究事業の概要
- 参考 5 - 1 - 2 人的組織的要因の体系的考慮に係る規制研究事業の概要の補足
- 参考 5 - 2 人的組織的要因の体系的考慮に係る規制研究事業の概要（ロジックモデル）
- 参考 5 - 3 平成 30 年度行政事業レビューシート（人的組織的要因の体系的考慮に係る規制研究事業）
- 参考 5 - 4 人的組織的要因の体系的考慮に係る規制研究事業の事業計画及び活動進捗度
- 参考 5 - 5 人的組織的要因の対策とは
- 参考 6 - 1 火山影響評価に係る研究事業の概要
- 参考 6 - 2 火山影響評価に係る研究事業の概要（ロジックモデル）
- 参考 6 - 3 平成 30 年度行政事業レビューシート（火山影響評価に係る研究事業）
- 参考 6 - 4 火山影響評価に係る研究事業の事業計画及び活動進捗度
- 参考 6 - 5 火山影響評価に係る研究事業 事業計画と実績及び事業費の推移

- 参考7-1-1 原子力発電施設等核物質防護対策事業の概要
- 参考7-1-2 我が国の原発テロ対策の現状
- 参考7-2 原子力発電施設等核物質防護対策事業の概要（ロジックモデル）
- 参考7-3 平成30年度行政事業レビューシート（原子力発電施設等核物質防護対策事業）
- 参考8-1 放射能測定に必要な経費の概要
- 参考8-2 放射能測定に必要な経費の概要（ロジックモデル）
- 参考8-3 平成30年度行政事業レビューシート（放射能測定に必要な経費）
- 参考8-4 「放射能測定法シリーズ」の改訂スケジュール

## 5. 議事録

○原田参事官 それでは、定刻でございますので、これより平成30年度第3回原子力規制委員会行政事業レビューに係る外部有識者会合を開催いたします。

本日、司会進行を務めます、長官官房会計担当参事官の原田でございます。よろしくお願いいたします。

まず、配付資料の確認をお願いいたします。お手元に資料をお配りしておるかと思いますが、一覧をおつけしております。これによって御説明を申し上げます。

配付申し上げた資料は、この一覧に続けまして議事次第、1枚紙でございます。ここにありますように、本日の議事は2件、外部有識者点検対象事業に係る所見（案）についてと、その他の連絡事項となっております。それぞれに対応するものとしまして、続けて資料の1、資料の2がございます。これが、本日、お配りした資料の本体でございます。

なお、資料1、議題1の外部有識者点検対象事業に係る所見（案）についての御参考とするために、参考資料を大きく八つのグループに分けておつけしております。それぞれ参考1～参考8までございます。枝番もございますが、それぞれが前回20日の第2回の外部有識者会合において御検討いただいた8事業に対応しております。

本日はこれらの資料を用いて御説明を申し上げ、御検討いただくことにしております。もし、過不足等あれば、事務局までお申しつけくださればと思います。

それでは、早速、議題に入ります。

1件目、外部有識者点検対象事業に係る所見（案）についてです。前回、第2回の外部有識者会合において、八つの事業について点検をしていただきました。そこでの質疑応答等

を踏まえまして、御議論を踏まえまして、事務方において有識者の所見（案）を作成しております。本日は、これを事業ごとに読み上げさせていただいた上で、原課の方から必要な補足的な御説明等を申し上げた上で先生方からコメントをいただき、所見として取りまとめをいただければと思います。

それでは資料1、参考資料1になりますが、事業番号5、経済協力開発機構原子力機関拠出金について説明を申し上げます。資料の1に、まず所見（案）をお書きしております。参考資料は、1-1～1-3までであります。

1ページ目の上の方になりますが、経済協力開発機構原子力機関拠出金、これに対する所見（案）は次のとおりです。1点目、国民への説明責任を果たす観点から、本事業による成果や活動について分かりやすくレビューシートに記載することを再度意識すべき。例えば事業所管部局による点検・改善欄で「OECD/NEA事業に参画し収集した情報は～原子力規制の向上を図るための検討に活用している。」とあるが、これでは具体的にどのような情報がどのように寄与したのかが見えてこない。田淵委員の御意見であったかと思いません。

2点目が、アウトカムで、外務省の統一指標として当該国際機関の職員数を使用されているが、原子力規制委員会の職員がどれだけ関わっているかということを示さないと本事業における成果がわからないので、そのような観点から再整理が必要ではないかという御指摘。

3点目、また、国際機関における職員数が原子力規制庁の政策目標（原子力規制行政による信頼性の向上）などにどのように寄与するのか、もう少し詳細な説明が必要ではないか。というものでございました。

事務局の方では、このようにまとめさせていただいております。

担当課の方から、これらのコメントを踏まえた対応あるいは必要な補足的な御説明あれば、お願いをいたします。

○藤森推進官 ありがとうございます。国際室の藤森と申します。

御指摘ありがとうございます。御指摘を踏まえまして国際室といたしましても、成果目標、成果実績、アウトカムでありますとか、あるいはアウトプットにつきましても、このレビューシート上でわかりやすい形での記載を検討したいと思っております。

以上でございます。

○原田参事官 それでは、担当課からの以上の説明も踏まえまして、先生方から所見

(案)について御意見等ございましたらば、お願いをいたします。

○田淵委員 今、御説明いただいた所見(案)なのですが、全体を見て私のコメントがかなりウエートを占めているのですけれども、飯島委員、西垣委員からも非常に有効なコメントをいただいていますので、ぜひ、しっかりこの所見の中に反映していただきたい、というのがまず1点でございます。

3点とも私のコメントになっているのですが、3点目は飯島委員もコメントされていたと思いますので、飯島委員に御確認いただくとよいかと思います。

2つ目に関してですが、アウトカムと書いてあるのですけれども指標の話ですので、‘成果指標として、政府全体の共通指標とされている「当該国際機関の職員数に占める日本人職員数・ポストの状況」が設定されているが、他省庁を含めた職員数は本事業の成果ではない’に修正。外務省の統一指標と書いてあるのですが、このようにコメントした覚えはなく、政府全体の共通指標とされている、の方が適切かと思いますので、修正いただきたいと思います。

ここに書かれているとおり、‘原子力規制委員会の職員がどれだけ関わり、事業に参画して得られた情報が原子力規制委員会内でどう活用されたかが成果である。そうした観点から、アウトカム・アウトプットの再整理が必要である’とまとめていただければと思います。

一番上のコメントですが、‘例えば’以下は削除していただいて、‘国民への説明責任を果たす観点から、本事業による成果や活動について分かりやすくレビューシートに記載することを再度意識すべき’、ということ。

先ほどご担当から、そういう対応をされるということでしたので、ぜひ、しっかりとした御対応をいただければと思います。

私からは以上です。

○原田参事官 ありがとうございます。

2点目の御指摘については、そのように修正をいたします。

1点目についても、同様にいたしたく存じます。

3点目につきましては、むしろ飯島委員の御意見という御指摘もございましたが。

○飯島委員 私の方から、3点目、若干コメントさせていただきますと、ここで原子力行政による信頼性の向上が目標であるということなのですけれども、具体的にどういうことを課題として、もう少し具体的に個別のことについて触れていただいて、それが、

OECD/NEA事業がどのように貢献しているのかということを知りやすく説明していただかないと、ちょっと漠然としていて、わかりにくいと思います。

あともう一つ、この数のところなのですが、前回、申し上げなかったのですが、今、田淵委員から、原子力規制庁から出ている職員数の数というのは本当に大事なことだと思います。あわせて、全体として、ここでは全体枠として職員数の数が出ているのですね、絶対数が。ただ、ここの国際機関の職員数に日本人職員がどれくらい占めているのかという総体的な規模というのがわからないと、それはイメージしづらいのかと。

特に、ここでプレゼンス向上ということがアウトカムのところの成果目標と掲げられていますけれども、全体像がつかめないと、そこは数だけではわからないというところもありますので。

もし、可能であれば、当該国際機関の職員数全体に占める日本人職員数の割合、これもあわせて併記していただけると、わかりやすくなるのではないかと思います。

以上です。

○原田参事官 ありがとうございます。

原課の方から。

○藤森推進官 御指摘ありがとうございます。まず、成果、わかりにくいというところにつきましても、アウトプット、アウトカムをレビューシート上で明確にさせていただきますので、それによって政策目標にどうつながるかというのが、ある程度、見えてくるのかと思いますので、レビューシートにきちんと最初の御指摘を踏まえまして書かせていただければと思います。

また、規制庁の職員数についてと、あと総体的な割合ということでございますが、そちらについても、どのように記載できるかも含めて、ちょっと検討させていただければと思います。記載する方向で検討したいと思います。

○原田参事官 それでは、3点目のところで、もう少し詳細な説明が必要ではないかというところに、全体の職員に対する割合を示すなどといった例示を書き足したりするような形で修正ということでもよろしゅうございましょうか、飯島委員。

○飯島委員 それはあくまでもアウトカムの問題で、もう少し、政策目標ですね、これはまた、ここでの数の問題とは違うと思うので、もう少し具体的にどのような目標というのを。箇条書きで結構だと思うのですが、それがあって、その課題に対してOECDのNEA事業がどれに関わっているのかというところで、もう少し具体的に示していただけるとよろし

いのではないかと思います。

○原田参事官 わかりました。それでは、3点目につきましては、政策目標を、より具体的に明らかにし、それに対し、どのように貢献するのかを具体的に示すことが必要ではないかという感じでもよろしゅうございましょうか。

○飯島委員 そうですね。

○藤森推進官 政策目標自体は、規制庁としての政策目標ですので変わらないと思いますので、その説明をきちんとつなげる形で、見えるように成果等を書かせていただければと思います。

○原田参事官 どうぞ。

○田淵委員 政策目標になると大き過ぎてしまう。これは拠出金という事業のレビューなので、全体がわかる中で、この事業はこれをやっていますということがわかるようにということで。政策目標がどうこうということではないので、それは政策評価の方でやっていただくということになるかと思っています。

その中での位置づけですね、この拠出金の位置づけがどこにあって、どういう貢献をしているのかということがわかるようにということだろうと思います。

○原田参事官 では、そのような形で修正をいたしたく存じます。

あと、田淵委員の2点目のお話でございますけれども、政府全体の共通の指標というのは、行政事業レビュー上は、これを使うというのが求められておるところでございますね、外務省は。

○藤森推進官 各省共通で、この数値を使ってございます。

○原田参事官 そうしますと、これ、書くのは書くにしても、規制庁としてこういうものもあるというのは、併記は可能でございますね。

○藤森推進官 そうですね。我々としては、その方向で考えてございます。別の欄で規制庁の職員の数字も明らかにするというような形を考えております。

○原田参事官 どうぞ。

○田淵委員 それでいいと思うのですが、これは使わなければいけないということになっているのですか。

○藤森推進官 そのような指示があるそうでございます。

○田淵委員 わかりました。ほかの省庁も同じだと思うのですね。ほかの省庁の行政事業レビューでも、多分、当該省庁のレビューはできないですね。ですので、全体として、そ



の中のうちのこの部分に関して原子力規制委員会が関わっていて、その方たちがどのような貢献をしているのかというのが見える形で。全体があってもいいと思いますし、むしろ、あった方がいいと思います。

先ほど飯島委員がおっしゃられたように、全体ですね、ほかの国も含めた全体があって、その中で日本がどのぐらいで、日本全体の中の原子力規制委員会がどのぐらいというのがわかるようにすると、わかりやすくなるのではないかと思います。

○藤森推進官 はい。

○原田参事官 ありがとうございます。それでは、この1件目につきましては、ただいま御提示いただきました修正にのっとして修正したものを作成いたしたいと存じます。よろしゅうございましょうか。

ありがとうございます。

それでは続きまして、資料1の事業番号6、原子力発電安全基盤調査拠出金について御説明を申し上げます。資料1の1ページ目の下のほうでございます。参考資料2であります。

所見（案）といたしましては、1点目、アウトカムで、外務省の統一指標として、これは先ほどと同じですね。当該国際機関の職員数を使用されているが、原子力規制委員会の職員がどれだけ関わっているかということを示さないと本事業における成果がわからないので、そのような観点から再整理が必要ではないか。

2点目、事業所管部局による点検・改善欄では基本的に全て○が記入されており、現時点での進捗状況は予定通り進行しているというような説明をいただいたが、活動指標・成果指標を見てもそのように判断をした根拠が不明である。

3点目、特に本事業は義務的拠出金ではなく任意拠出金という性質を踏まえ、拠出金の成果によって規制庁の活動にどのように寄与しているのかということの説明が必要がある。

以上でございます。

なお、1点目は事業番号5、1件目と同様の話であろうかと思いますので、先ほどの御議論を踏まえて修正をいたしたく存じます。

以上でございます。

次に、原課のほうから補足的な御説明等ございましたらお願いをいたします。

○藤森推進官 ありがとうございます。基本的には事業番号5と同じかと思っておりまして、レビューシート上できちんと成果について具体的な形で記載をしたいと思っておりま

す。

以上です。

○原田参事官 それでは、以上の御説明を踏まえまして、先生方から所見（案）について御意見等ございましたらお願いいたします。

お願いします。

○田淵委員 3点目なのですが、できれば、もう一つ上に持ってきていただいた方がつながりでわかりやすいかと思っておりますので、2番目に持ってきていただくとよいのではないかと思います。

中身ですけれども、要するに、事業目的が異なるということを申し上げたかったので、‘本事業は任意拠出金であり、義務的拠出金とは事業目的が異なることを踏まえ、収集した知見・情報がどう活用されたかをより具体的に明らかにする必要がある’ということで取りまとめただけだと思います。

○原田参事官 まず、言葉についてはそのようにいたしたく存じます。

順番については、西垣委員、よろしゅうございますか。

では、原案の3点目を2番目に繰り上げるという形で対応いたしたく存じます。

ほかにいかがでございましょうか。飯島委員、西垣委員、何かございましたら。よろしゅうございますか。

それでは、そのように修正をいたしたく存じます。ありがとうございます。

続きまして、資料1の事業番号20、2ページ目の上のほうでございます。原子力安全研修事業について、御説明を申し上げます。

所見（案）を読み上げます。1点目、成果目標では理解度テストの合格ライン、成果実績では同平均値を掲げているが、平均値ではどれだけの人が目標を達成できたのかが見えてこないため指標の再設定が必要ではないか。例えば中央値や最頻値など分布がわかるような数値を選んで併記する方が、問題のある者が浮かび上がって評価がしやすくなるのではないか。また受講者側の得点に依る評価だけではなく、その上司などの評価を取り入れることで、研修が本当に有効だったのかという点を評価してみてもどうか。次年度以降の課題であると。

2点目、事業所管部局による点検・改善欄で、原子力保安検査官等訓練設備整備事業委託費を入れ込んで評価している部分は、本事業の実績に関する内容のみで評価するよう記載を見直すべき。

3点目、次年度以降、原子力検査官等研修事業として統合後の事業を行政事業レビューで評価するにあたり、統合前の各予算の執行がわかるように整理すること。

以上でございます。

それでは、センターのほうから補足的な説明、あるいは御指摘等に対する対応、御説明があれば、お願いいたします。

○浦野副所長 ありがとうございます。原子力安全人材育成センターの副所長、浦野でございます。

所見としてお示しいただきました。1点目でございますけれども、我々は研修を実施する、その成果の役立ち度、習熟度を確認して新しい資格制度に基づいた形に認定もしていくということで、この点に着目しまして今年度は行っております。

それで、昨年度の事業についての御指摘、これも、まさに今年度につながってまいりますので、今年度、行っております研修が本当に有効だったかという観点で、御指摘いただいた事項をきちんと念頭に置きながら、来年度、すなわち今年度、行っているレビューシートの中に、きちんと、わかりやすく、国民に説明ができるような形で表れるような形の工夫をしていきたいと考え、取り組んでいきたいと思っております。

2点目でございますけれども、レビューシートにつきましては、会計部門と相談の上、これは、わかりやすいような形にきちんと整理したいと思います。

3点目の次年度以降ということで、まさに30年度の事業、本年度の事業ということでございますけれども、これについても統合後の内容について、わかりやすいように反映をしていきたいということでございます。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの御説明も踏まえまして、所見（案）について御意見があれば、お願いいたします。

どうぞ。

○田淵委員 1点目に関しては、全員のコメントということですので、しっかり対応いただきたいと思っております。

1つ目に2つの点が入っているので、5行目の‘また’以下は別立てにさせていただいて。例えば、‘任用資格取得に係る研修以外では、自己評価だけでなく、第三者的な評価が研修の有効性を評価する上で有効である’というコメントを、別立てでまとめていただいたほうがわかりやすいのではないかと。

1点目に関しても、最後に関してもなんですが、言い回しがあまりにもごちゃごちゃしているので、追って、文言の精査は必要だろうと思います。

最後の、次年度以降の組みかえ後の話なのですが、‘予算の執行がわかるように整理すること’とあるのですが、予算の執行だけではないのです。全部です。成果がどうだという話も含めてですので、‘過年度の時系列データについて、事業の組みかえ後の事業内容に合わせて整理した上で評価を実施していくことが必要である’ということです。

この点に関しては、西垣委員もコメントされていると思うので、西垣委員からもコメントをいただければと。

○西垣委員 私、いろいろ御質問させていただいたと思うのですが、御質問させていただくということは、要は、明確に記載していないから、わからないからということでお聞きしている部分がありましたので。例えば、不用率が多かった部分に関して、教材の作成費ということだったので、その点について御質問させていただいたりしましたが。

そういった面で、記載が十分じゃない部分があるからということで質問させていただいているので、その部分に関しては、要は、こういう部分に関しては明確に記載すべきであるとか、そういった所見でまとめていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○原田参事官 まず、1点目につきましては、田渕委員から御指摘がありましたように二つの話が入っているということで、御指摘のように分けたいと存じます。

それから二つ目。第3点目については、執行の話だけではなくて全体がわかるようにという御指摘についても、同様にいたしたいと思います。

最後、西垣委員からお話いただいた点については、不用率の話ですとか御質問いただいた点を若干、例示する形と記載が十分でない点があるので、事業の全体を評価できる記載の充実を図ることといった形で整理させていただければと存じますが、よろしゅうございましょうか。

ほかにいかがでございましょう。

どうぞ。

○田渕委員 今の西垣委員のコメントの補足になるのかどうかかわからないのですが、この事業だけではなくて、前回レビューをした段階で、質問をいろいろされているものに対して、所見のこの案に抜けているので、ほかの事業も含めてですね、この事業だけでな

く。全体をそうした目でもう一度見直して所見（案）を取りまとめていただきたいと、私はそのように受け取ったのですけれども、いかがでしょうか。

○原田参事官 そうしますと、個々の案件について、こういった事項というのを例示した形で、同じ感じで入れたりでしょうか。

○田淵委員 そうではなくて、事業ごとに質問をされているのです。要するに、その質問の視点が所見（案）に入っていないので、全部で8事業ありますけれども、8事業の中でいろいろ、私も含めて、質問の形式でコメントさせていただいたことが多々あるので、そこも踏まえて取りまとめをしていただくとよいのではないかということです。

今の参事官の話ですと、この事業だけになってしまいますが、全部ですね。8事業全体をもう一度チェックしていただいて、抜けている部分もあると思いますので、所見（案）として補足していただくと。今後、メールでのやりとりになるかと思いますが、文言の修正も含めて最終的な所見を取りまとめていくという方向で対応していきたいと思えます。

○原田参事官 わかりました。では、議事録のほうを今、作成しつつありますけれども、それを精査した上で御提示させていただければと存じますが、よろしゅうございますか。

では、そのようにいたしたく存じます。

ほかにございましょうか。よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

それでは続きまして、事業番号23、資料1の2ページ目の下半分になります。こちらについて、御説明を申し上げます。

所見（案）は、以下のとおりでございます。1点目、レビューシート及び参考資料中に記載している活動指標（アウトプット）について計数が合致しない箇所を修正すること（点検改善欄の「その他コスト～欄」が未記入なものも併せて修正することと）。これが1点目です。

2点目、定量的なアウトカム・アウトプットについて、研究系事業で統一的な指標を用いているが、これでは本事業における成果や活動が見えてこない。国民に本事業の中身がわかるよう再整理を行うこと。

3点目、安全研究の実施及び評価の流れについて、公開プロセスを踏まえて参考資料を作成いただき全体の流れが非常にわかりやすくなったと思うが、参考資料だと目にされない部分もあるので、可能な限りレビューシートに落とし込むか、参考資料へのリファレン

スをふるなどすべきと。

4点目、一者応札となっている案件について、事前の声かけ後に辞退された業者に対して、可能であれば、どのような観点で見直しを行えば入札に参加いただけるのかという情報を入手するよう努めるべき。

5点目、再委託先の随意契約について、委託先の規定に基づく確認ではなく、原子力規制委員会主導で競争性・効率性を諮っていくべきではないか。「諮る」の字が違いました。失礼しました。契約の特殊性等の事情により匿名随契以外が取りがたいのであればその理由を明記すべきではないか。

以上でございます。

原課の方から追加の説明、あるいは前回の御指摘に対する御対応等、御説明があれば具体的にお願いをいたします。

○田口首席技術研究調査官 システム安全の田口でございます。よろしくお願ひいたします。

いただきました御指摘に対しまして、回答させていただきます。

まず、1点目～3点目、そして5点目の御指摘につきましては、内容を精査いたしましてレビューシートへ反映し、修正版を提出させていただきました。そして、4点目の御指摘に対しましては、御指摘を拝承させていただきます。今後、情報の入手に努めてまいります。

以上でございます。

○原田参事官 それでは、ただいまの御説明等を踏まえまして御意見があれば、お願ひいたします。

田渕委員、どうぞ。

○田渕委員 1点目の計数の修正のところなのですが、修正版としていただいたものも数字が合っていないのではないかと思うのですが。まず、3ページ。30年度活動見込みです、これ、下を足すと10になると思うのです。4+2+4で10ではないですか。下の三つを足したものが一番上になる、違いますか。多分、こちらが指摘したところだけ修正されているように思うのですが。

○田口首席技術研究調査官 失礼いたしました。そうでございます。

○田渕委員 なおかつ、その次のページの4ページも、これはコメントしたと思うのですが、測定指標のところ。一つ目のところはそれぞれ1件になるはずで、1番目が

1件で2番目が6件と11件、今は4件と1件ですけれど6件と11件。前のデータと合わないのですが。1カ所だけしか修正されていないのか、よくわからない。「精査の上」と書いてあるのですけれど、何をもって精査されたのか。

○田口首席技術研究調査官 申し訳ございません。再度、修正させていただきます。。

○田淵委員 それともう1点、2ページのところ、29年度が単年度の数字になっているのですけれども、成果指標の説明のところには累計件数とある。アウトプットは単年度でもいいのですけれども、成果指標は累計として、全体としてどのくらいになるかというように示した方がわかりやすいので、ここは29年度が17件、28年はこれ6件だと思うのです。前の数字が、そのまま残っています。これも、データミスになると思います。

目標最終年度の31年度も、本来は25/25でないで達成度と合わない。達成度の記載方法も、100/36ではなく、36%、68%、100%と書いたほうがわかりやすいのではないかと思うのですけれど。今の8/25のままで29年度を見ても、68%が出てこない。17/25で68%だと思うのです。

もう一度、きちんとしたデータをもとに評価をしていただかないと、この評価自体が使えなくなってしまいます。せっかく評価していただいても使えなくなってしまいますので、しっかりした形でチェックを含めて対応いただきたい。1人で全部を対応するのではなくて、クロスチェックするとか、原課の中でしっかりとした議論を踏まえて評価をしていただきたいと思います。

○田口首席技術研究調査官 失礼いたしました。ありがとうございます。

○原田参事官 数字については、再度、精査をいたしたいと思います。

ほかにございますれば。

○田淵委員 コメントをまとめていただいている所見（案）は、それぞれ内容的にはこういった観点なのですが、ここも含めて文言の精査が必要で、ちょっと練ったほうがいい部分もありますので、再度、調整をさせていただきたいと思います。

○原田参事官 わかりました。

飯島委員、西垣委員、いかがでございましょうか。文言は、また、すり合わせをさせていただいてということよろしゅうございますか。

ありがとうございます。

それでは続きまして……

○小澤統括技術研究調査官 すみません。システム安全、小澤でございます。

先ほどの2ページ目の上の欄のアウトカムの実績の表記でございますが、この内訳は参考4-5の裏側ということで、2ページ目のところに書いてあるものでございます。年度単位で数字を入れてございますが、28年度が9件、29年度が8件で、累計では17件になりまして68%という形になります。ですので、ここを29年度のところに累計で数字を書くべきというところは訂正させていただきまして、それに対応させていただきたいと思っております。

○田淵委員 3ページの6件とリンクしてなくて、いいのですか。

○小澤統括技術研究調査官 はい。違うものでございます。3ページ目の、これはアウトプットで、これは査読つき論文、あるいは査読つきのプロシーディングスの数を数えたものでございまして、2ページ目のアウトカムのカウントでございますが、これはデータとか、それを取りまとめた論文投稿を個々、数えて、アウトカムの実績として掲載してございます。

ですので、3ページ目の数字と2ページ目の数字は、合致しないことになります。

○原田参事官 2ページ目は、これはアウトカムの指標で、3ページ目はアウトプットの指標ですから、そこが同じでないのはわかりますが、数字の集計が合っているかとか、あるいは2ページ目の表記、アウトカムのところの表記の仕方として、累計なのか単年なのかといったところは御指摘いただいた部分を踏まえて修正が必要だと思っておりますので、また、そこは数字を精査の上、御検討いただければと思っております。

○小澤統括技術研究調査官 はい。了解いたしました。

○原田参事官 よろしゅうございましょうか。

ありがとうございます。

それでは続きまして、事業番号39、資料1ですと3ページ目の上になります。参考資料は5でございます。人的組織的要因の体系的考慮に係る規制研究事業について、御説明を申し上げます。

所見（案）は、次のとおりです。1点目、定量的なアウトカム・アウトプットについて、研究系事業で統一的な指標を用いているが、これでは本事業における成果や活動が見えてこない。国民に本事業の中身がわかるよう再整理を行うこと。

2点目、不用理由について、節約することによって不用が発生したのか、時間的な制限があり対応が困難だったのかという旨が評価欄の記載では見えてこないもので、可能であれば数値も記載する形で説明を果たすべきと、説明責任ですね、を果たすべきというものでございます。



担当課の方から、先生方のコメントを踏まえた対応、あるいは補足的な説明があれば、お願いいたします。

○田口首席技術研究調査官 システム安全、田口でございます。

いただきました2点の御指摘につきましては、レビューシートの方へ反映させていただきました、2ページ目と5ページ目に記載してございます。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

どの辺りか、御説明いただけますか。

○田口首席技術研究調査官 まず、2ページ目でございます、成果目標と成果実績、アウトカムのところ、ここは一般的な書き方をしておりましたところ、統一的な書き方をしておりましたところを、人的組織的要因を体系的にというふうに中身のわかるように記載してございます、それを下2カ所も同様にさせていただきました。

それから、不用の額でございます、5ページ目のところでございます。真ん中辺りの、不用率が大きい場合、その理由は妥当かというところに理由と金額を記載させていただきました。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの御説明も踏まえまして、所見（案）についての御意見等ございましたら、お願いをいたします。

どうぞ。

○田渕委員 2点目に関しては、ここでは予算額と執行額の乖離について、今回だけではなくて、そういったものが発生したときには、しっかりと要因を分析して予実管理の徹底を図っていただきたいと、その趣旨でのコメントでございますので、むしろ記載がどうこうという話ではないのです。

ですので、しっかりと予実管理をしていただきたいと。新規のもので、今後も予実管理を徹底していただきたいということでございます。

○田口首席技術研究調査官 ありがとうございます。この事業にかかわらず、全事業に共通的に注意したいと思います。

○原田参事官 所見（案）の方もそのような、共通する話としてわかるような形で文言を整理させていただければと存じます。

ほか、いかがでございましょうか。飯島委員、西垣委員、よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

それでは続きまして、事業番号35、火山影響評価に係る研究事業について御説明を申し上げます。資料1、3ページ目の下半分、参考資料は6でございます。

所見（案）は、次のとおりであります。1点目、点検・改善結果欄（点検結果及び改善の方向性）が未記入だった部分を追記説明すること。（そのほか、資金の流れ欄中A欄において最大支出先ではない者の名称が記載されているため最大支出先名に修正すること、上位10社リストにおける落札率について可能な限りそのように記載すること）。

2点目、平成31年度から新しい事業となるにあたり、事業の全体像（これまでの研究の進捗、使われた予算や今後の研究計画（マイルストーン））がわかるような資料を示すこと。

3点目、成果実績（火山影響評価ガイドの改訂）にそれぞれの研究がどのように活用されていたのかということがわかるようにしていただきたい。例えば各研究によって火山影響評価ガイドがそれぞれ何箇所改定されたのかということを示したり、点検改善欄の「整備された施設や成果は～」欄の記載を修正したりするなどして説明をしていただきたい。

4点目、活動指標について、公表されたもの以外に審査中のもの等も含める等柔軟な記載にする方が単年度の成果がよりわかりやすくなるのではないかと。

5点目、事業所管部局による点検・改善欄における他省庁との役割分担について、適切に役割分担を行うだけでなく、こうした研究を専門に実施している機関と密に連携を図って、分担だけでなく効果的・効率的な事業実施を図っていただきたい。

以上であります。

原課の方から補足的な説明、あるいは前回の御指摘への対応等について、御説明をいただければと思います。

○小林安全技術管理官 それでは、地震・津波の小林です。

コメント、どうもありがとうございました。ただいまのコメントに関しまして、対応について簡単に御説明させていただきます。

まず、指摘は5点ありましたが、1番と3番、4番、5番は、行政レビューの方に反映させていただいております。1番目の点検・改善結果でございますけど、これに対しては、大変申し訳ありません、今回、6/9ページの方に点検・改善の方向性ということで記載させていただいております。

それから、資金の流れに関しましては次の7/9ページでございますけれども、Aの委託に関しましては国立研究開発法人ということで修正させていただきました。また、資金の流

れでも落札数がかかることに関しましては、AとB、委託及びBの請負に関しましては、入札者及び落札率を記載しております。

続きまして、3番目の指摘でございます成果実績でございますけれども、こちらに関しましては行政レビューシートの5/9ページ目でございます。5/9ページ目の左側の事業の有効性のところでございます。有効性のところの一番上の段と一番下でございますけれども、成果の実績のところに関しまして、今回、得られた成果は、安全研究の実施項目の中の②の噴火規模及び影響範囲推定のための研究から得られた知見であるということで、それで火山灰濃度から火山影響評価ガイドの改訂を行ったというところを明記させていただいております。

また、これが十分活用されたかということに関しましては、このガイドの改訂に伴いまして、保安規定の再審査、バックフィットをかけまして、原子力施設の火山に対する安全性向上を図るというようなことで十分活用されたと考えております。

4番目の活動指標でございますけれども、公表された以外のものというものでございましたけれども、他の安全研究同様に、論文といたしましては、公表中のものは、まだリジェクトされる可能性がございますので、やはり公表されたものを論文数としてカウントするという考え方にしております。

最後に5番目の事業の所管でございますけれども、こちらは5/9ページ目の関連事業でございます。こちらが一番下のほうの3行でございますけれども、火山に関する研究者、国内でも限られた数でございますけれども、こういう方々と私たち国内外の学会等で情報収集するとともに、研究対象が重なる場合には共同研究とかの体制を構築していくといったことで、効率的・効果的な実施体制を図っていくということを考えております。

あと、2番目の指摘でございますけれども、今までの事業全体像のわかる資料ということでございまして、これに関しましては、参考資料6-5といたしまして予算の流れと全体の事業計画がわかる資料を、今回、追加でおつけさせていただきました。

以上でございます。

○原田参事官 ありがとうございます。

ただいまの御説明も踏まえまして、所見（案）について御意見等あれば、お願いいたします。

どうぞ。

○田淵委員 1点目、7ページですね、国立研究開発法人等とか国立大学等とかあるのです

けれども、フルで記載していない理由は何かあるのでしょうか。フルで記載したほうが、わかりやすいと思うのですが。間違いもなく。

○小林安全技術管理官 今のAのところの2者というところを、2者名を明記しろということでございますか。

○原田参事官 産総研……。

○田淵委員 そう、産総研を入れた方がわかりやすい。京都大学も入れた方がわかりやすいのではないかとということです。

○小林安全技術管理官 それは、わかりました、修正いたします。

○原田参事官 そこは修正いたしたく存じます。

ほか、いかがでございましょう。

○田淵委員 あと、文言は改めて、追って調整をさせていただきたいと思います。

○原田参事官 わかりました。

では、飯島先生、西垣先生、よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

それでは続きまして、事業番号45、原子力発電施設等核物質防護対策事業について、御説明を申し上げます。資料1の4ページ、一番最後のページですね、上半分でございます。参考資料は7であります。

所見（案）は、次のとおりです。1点目、アウトカムにある盗取及び妨害破壊件数等が0件だったということについて、どのように繋がっているのかということがより客観的にわかるような記載があると良い。例えば、平成30年3月に事業者向けに策定したガイドラインがどのように評価されているのか、国際基準から見て日本の取組がどの程度評価されているのかという点について、出来る限り工夫をした記載を検討していただきたい。

2点目、原子力発電所に対するテロ対策は国民にとっても関心の高い分野である。このため、テロ対策がなされていることが安心に繋がることから、国民の視点に立って可能な限りの情報発信を行うよう心がけていただきたい。

以上でございます。

原課から、補足的な説明、また前回の御議論等を踏まえて対応等について御指摘があればお願いいたします。

○児嶋安全規制管理官 核セキュリティ部門、安全規制管理官の児嶋でございます。よろしく申し上げます。

御指摘ありがとうございました。まず、御所見の飯島委員の1点目でございます。盗取及び妨害破壊件数が0件だったという成果目標につきまして、どのようにつながっているのかということですが、お手元の行政事業レビューシートの中で書き入れていこうと思っております。

ちょっと、今まだ文章は確認中なのですが、具体的には、まず、レビューシートでいうところの1枚おめくりいただいた評価に関する説明がある部分でございます。事業の有効性の一番上の欄の成果実績は成果目標に見合ったものとなっているかのところにつきまして、現在、検査等を行いちゃんとやっていますと。見合ったものとなっておりますということを淡々と書いているだけなのですけれども。技術動向調査やデータを取得した結果、それを踏まえた上で検査を行って所要の指導を行い、事業者の防護措置を充実させていると。その結果、成果実績が達成されているという形で、まず書き入れるとともに、それ以外の欄でございますけれども、同じ欄に書き入れるとどんどん増えてしまいますので、1枚おめくりいただいて、整備された施設や成果物は十分に活用されているかという欄には、ガイドラインを策定して事業者の充実に活用されているとか、どのように活用しているかというのを記載しております。

また、一番最期の備考欄でございますけれども、IAEAのIPPASを受けて、どのような評価を受けているかということを書き入れる方向で今、検討しております。

このような形で、ちょっとばらばらにはなりますけれども、極力わかる形で具体化していきたいと思っております。

また、田淵委員から御指摘いただきました可能な限りの情報発信を行うよう努めていただきたい、今後もそのように頑張りたいと思います。

せっかく御指摘いただきましたので、レビューシートの中で、どこか書き入れられないかと今、考えておまして、現時点では、ちょっと欄として適当ではございませんが、国費投入の必要性という欄の一番上の、事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているかという項目の、ここの御説明の中で、なお書きですけれども、このような形で原子力規制委員会に何件報告し、それ以外にも資料を公表し、また記者に内容を説明するなど、国民の視点に立って情報公開に努めているということを書き入れる方向で今、検討しております。

このような形で、ちょっとところどころになりますけれども、まず、レビューシートは変えさせていただくとともに、また来年以降もしレビューに当たることがございましたら、

よりよく、より具体的に、もっともっとそれぞれ細かく書けるように工夫してまいりたい  
と思っております。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの御説明等を踏まえまして、所見（案）について御意見があれば、  
お願いをいたします。

どうぞ。

○田淵委員 レビューシートのほうで答えを検討されているということなのですが、原発  
テロ対策だけではなくて、核セキュリティの取組も含めてです。ここの所見（案）はテロ  
対策に限定されているのですが、そういった狭いものではなくて、全て。原子力発電所だ  
けでなく原子力施設全体に対しての取組について、国民の皆さんの安心につながるような  
形での対応をぜひ、進めて行っていただきたい。

レビューシートに記載していただくのはいいのですが、実際に、どこを見たらそ  
ういうことがわかるのかも含めてですね。レビューシートがどうこうの話ではなくて、実  
際に、どういう形で国民の皆様に取り組んでいる内容が御理解いただけるのか、可能な範  
囲で、そういった観点で、国民の皆さんの視点に立った形での対応をぜひ、心がけていた  
だきたいと思います。

以上です。

○児嶋安全規制管理官 承りました。

○原田参事官 ほか、いかがでございましょうか。

飯島委員、どうぞ。

○飯島委員 これから修正していただけるということで、よろしく願いいたします。

あと、これに関連して、前回コメントしませんでしたけれども、やはりセキュリティの  
問題というのは、アウトプットからアウトカムにつながるに当たって、アウトプットとい  
うのは事業で結構コントロールできると思うのですが、セキュリティを取り巻く外的要因  
とか、そういう変化というのが、やはりアウトカムにも影響を与えるでしょうし、それ  
を受けてアウトプットも変わってくるということがあるかと思えます。

可能であれば、そういうセキュリティ問題を取り巻く全体像がわかるように、外的要因  
などが、それは多分、ロジックモデルあたりでそれが反映できるようになると、より、こ  
の事業の有効性というのが説得的になるのではないかと思いますので、可能であれば、そ  
のあたりも次年度以降、御検討いただければと思います。

○児嶋安全規制管理官 わかりました。ありがとうございます。

○原田参事官 ほかはいかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

わかりました。

では、御指摘いただいた点を踏まえ、また文言については適宜修正ということでお話をさせていただければと思います。ありがとうございます。

それでは次に、最後になりますが、事業番号47、放射能測定に必要な経費について御説明を申し上げます。参考資料8、資料の1では4ページ目の一番最後、下半分でございます。

所見（案）は、次のとおりです。放射能測定に必要な経費：測定法シリーズの改訂状況について、単年度ごとの成果目標・成果実績のみを記載するのではなく、全体で34種あるうちの、現在までにどの程度改訂が終わっているのか、今後どのようなペースで改訂を行っていく見通しなのかということがわかるような指標の立て方を検討するべきではないか。例えば34種の中で重要度があるのであれば大まかに何段階かのグレードを示して、今はグレード何段階目の何を改訂しているのかということがわかるような作りになっていると好ましい。

所見は以上でございますが、前回の御議論でいただいたコメント、あるいは補足のコメントへの対応、あるいは補足の説明がございましたらば、原課の方からお願いをいたします。

○武山監視情報課長 監視情報課長の武山です。

まず、参考の8-3、レビューシートを見ていただきますと、34種というのは既存のものが34種ということなのですけれども、実は、新しく制定するものが三つあるので、全体で37ということになっています。

あと、参考8-4を見ていただきますと、新規というのが三つありますけれども、その三つが追加される形なので、全体は37と考えているところになっています。

その関係で、御指摘を踏まえたアウトカムのところの方を追加したというのが8-3の1/6ページが一番下にあるような形で、全体が37というところについて、うち累積で幾つできているのかという形で示したというのがございます。

あと、改訂の順位ですね。改訂の順位に関しては8-4という形で、※、A、Bという形になりますけれども、実は、CとDというのがまた追加であるのですが、ここはまだ具体的に何年度に何をやるかというところまでは決めていなくて、とりあえずA、Bというところまでは、こういうスケジュールでしたいと考えているところですので、この改訂の優先順位

に関しては、実はホームページで既に公表しているのですが、そこについて言及する形で、根拠として用いたデータ名というところに追記する形で示しているというものでございます。

以上でございます。

○原田参事官 ありがとうございます。

若干、原課のほうへお尋ねだけなのですが、1/6ページの一番下のアウトカムのところ、成果実績、累計でお書きになって、目標値のところはずっと37というのは、これは最終目標の数字でございますね。

○武山監視情報課長 そうですね。これ、実は前回も、この様式に制限があって、分数が書けない様式になっているので、目標値のところには本当は37分の幾つと書こうと思ったのですが入れられなかったのが37というふうにしたのですけど。

○原田参事官 そうすると、何%までの進捗という感じでやっておくことも手だったかもしれないですね。

○武山監視情報課長 そうですね。したがって、達成度のところが、ある意味、全体で37で100%と考えると、全体で今8%できていますという、そういう意味で書いている形になります。

○原田参事官 お尋ねしたかったのはまさにそのところで、例えば29年度でしたら累計で4行こうという目標だったかと思います。目標値からするとですね。

○武山監視情報課長 累計はそうですね。

○原田参事官 ですから、4に対して3というところで、75%という書き方ができたのかと思って。

○武山監視情報課長 そうなのですが。だから、前回のここでの議論のときに、34という全体の指標の中で、どのぐらいなのかということがわかるようにしてくれという話だったものですから。

○原田参事官 分数に対する進捗みたいな感じで考えられることができればよかったという、そこは……。

○武山監視情報課長 ええ。本当は、37分の4とかにしたかったのです。

○原田参事官 そこは、ここの記載のやり方の書式の制約がかかっているため、ということではよろしゅうございますか。

○武山監視情報課長 そうです。そういうことです。

○原田参事官 すみません。ちょっと補足的に質疑をいたしましたけれども。



ただいまの御説明等を踏まえまして、所見（案）について御意見あらば、委員の方々からお願いいたします。

どうぞ。

○田渕委員 前回よりは全体が見えやすくなっているかなとは思いますが、1ページ目のところなのですけれども、突然ここに37が出てきているのですが、例えば、定量的な成果目標のところ、測定法シリーズの既刊（34冊）及び新規策定（3冊）というような形を示すだけでも、なぜ突然37になったのかがわかる。初めて御覧になる方は、私もこれ34の間違ひではないかと最初は思ったのですね。

ですので、そういった視点で、もう一度資料を見直していただいて、わかりやすく整理をしていただくとよいのではないかと思います。

シートの記載に制約がかかっているとおっしゃるのですが、そこを外して別に書いてもいいと思うのですね。書いてはいけない、直してはいけない、というのもあるのですか。

○原田参事官 そこは、事務局によく確認したいと思います。統一書式なものですから。アウトカムとかアウトプットの欄を増やすというのはできるのですけれども、それ以外のところをどこまでいじってよいかというのは、ちょっと確認をさせていただきたいと思っています。

○田渕委員 別の事業で100分の幾つとかというのも出てきていましたよね、提示の仕方として。

○原田参事官 ございます。

○田渕委員 ですので、わかりやすく。もし、できないのであれば、できるようにすべきであって、そこはやはり、行革と調整するなりしていく必要はあるのではないかと思います。制約に縛られてわかりにくい資料をつくるほうが効率的にも悪いですし、わかりにくさにもつながるので、原課がやりにくければ、こういう形に修正したいということで調整をされてはどうかと思います。

○原田参事官 そこは会計部門での取りまとめになりますので、調整をしつつやりたく存じますし、万一、整数しか入れられないということであれば、分数がダメならばパーセンテージで整数を使うという手もございますので、やり方は考えたいと思います。

いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

では、また具体的な文言のところは調整させていただくということで、やらせていただければと思います。ありがとうございます。

1件目の議題は以上でございます。

2件目につきましては、今後の予定についてということで御説明を申し上げます。関係資料は2でございます。資料2、平成30年度原子力規制委員会行政事業レビュー、今後の予定についてというタイトルのものがございますが。

今後の予定でございますけれども、本日、御議論いただきましたものをもとにして、所見の最終的な原稿をつくろうと思っております。これについては、また別途、御連絡を申し上げます。

予定としましては、8月1日に原子力規制委員会の定例会において平成30年度原子力規制委員会行政事業レビューに係る取組の講評をいただきます。この際には、行革本部のほうで御指名いただいた委員の方々とともに講評を賜ることを予定しております。また、いただいた講評、それから所見、これらを踏まえまして、8月末日に提出いたします概算要求書、これに反映をさせていくことを予定しております。

その後、9月上旬に行政事業レビューの結果を踏まえた改善点、あるいは概算要求における反映状況を記載した行政事業レビューシートを作成し、最終的に公表すると。中間公表は先般、行ったところでありますが、最終公表を行う。また、平成30年度行政事業レビュー事業単位整理票兼点検結果の平成31年度予算概算要求への反映状況調表の公表も行うことにしております。

このような流れでやっていくこととなりますので、次回会合は8月1日、講評の場において御意見あるいは御指摘等を賜るということを予定しております。それは原子力規制委員会の定例会の場においてでございます。

このような予定でございますが、御質問等ございましたら。

どうぞ。

○田淵委員 これまでにもあったのですけれども、前回こちらから指摘をさせていただいて、今回それに対応したレビューシートになっているところもかなりあるのですね。このままのコメントが所見欄に載った場合に、整合がとれなくなる。例えば、○になっているがおかしいのではないかと、というところが、その対応がなされたレビューシートになっていると、所見欄と合わなくなるのですね。

ですので、所見は所見として、こういう最初のレビューシートに対して、こういったコメントがあったと。もし、それにきっちり対応をしていただけている状況であれば、‘所見を受けてレビューを修正’とかですね。

例えば、最後の放射能の測定に必要な経費のところであれば、‘参考8-4で対応’とかですね。既に今回、かなり対応もされているので、コメントは残しておいていただき、そういった形で、今回対応されたものが、どういう形で所見とつながっているのかというのがわかるようにしていただかないと、ずれが生じますので、こちらの方はきっちり精査していただきたいと思います。

○原田参事官 御指摘のとおりですので、そこについては括弧書きなり注記なりといった形で、わかるようにいたしたいと思います。ありがとうございます。

それでは最後に、全体を通じ御意見、御質問等ございますれば。よろしゅうございますか。

それで、本日の第3回有識者会合を終了いたします。

長時間の御審議、ありがとうございました。

以上